

授業改善プラン

1 年 教科 (理科)

【目的】

- 生徒の課題を分析し、適切な指導方法の工夫、改善を行う。
- 生徒、保護者に課題、改善の取り組みを明示し、学校と一体になって学力向上へ向けた取り組みを行う。

学力調査・定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子から分析して作成する。

観 点	1・2学期		3学期
	課題分析	具体的な改善プラン	改善プランの評価 来年度に向けて
自然事象への関心・意欲・態度	○自然事象への関心が高く、実験や観察に対する意欲もある。	引き続き、生徒の興味・関心を引けるように、できるだけ本物を用意し、日常生活に関連させながら授業を行っていく。	今年度は屋外での活動も多く取り入れ、身近に触れながら授業ができた。来年度も引き続き実物や体験を通して授業を行っていく。
科学的な思考・表現	○科学的な思考を行うための基礎知識と表現力がまだ不十分である。	授業中の発問や話し合い活動を多くし、考えたことをまとめて発表する練習に取り組ませる。	レポートや授業のワークシートを中心に組み立てることができた。話し合い活動はコロナの関係もあり多く取り組めなかったため、増やしていく。
観察・実験の技能	○実技テストを行うことにより実験器具の基本操作は理解しているが、扱いに苦手意識を持っている生徒もいる。	引き続き、実技試験をするとともに、班ごとの実験ではなるべく全員が実験器具に触れるように小グループにしたり、声掛けしたりする。	実験の実技試験を行い定着に努めることができた。薬品の取り扱いや正しい計量の操作などは定着しきれていないので、確認をしていく。
自然事象についての知識・理解	○知識が定着していない生徒がいる。	定期的に単元テストや重要用語の確認などを行い、正答率が低かった問題の解説をする。	重要用語の確認や単元テストを中心に組み込み用語の定着はよくできていた。引き続き取り組んでいく。
授業改善の検証方法	授業内での態度や課題、小テストや定期テスト、模試の点数の推移		授業内での態度や課題、小テストや定期テスト、模試の点数の推移、日々の実験のワークシートなど

小中一貫教育の視点	具体的な取り組み (交流・連携等)	2学期までの 成果と課題	1年間の成果と 今後の課題
自分の力でたくましく 生きぬく子の育成 ～9年間の継続的な一貫性のある指導を目指して～	情報交換 小中の関連単元の確認と重点項目の確認。	授業のはじめに復習することで生徒の理解度が高まった。また、実技テストも有効だった。話し合い活動を増やしていく。	小学校の授業内容も確認しながら、時間をかける単元などを見極めながら取り組むことができた。

授業改善プラン

2年 教科（理科）

【目的】

- 生徒の課題を分析し、適切な指導方法の工夫、改善を行う。
- 生徒、保護者に課題、改善の取り組みを明示し、学校と一体になって学力向上へ向けた取り組みを行う。

学力調査・定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子から分析して作成する。

観 点	1・2学期		3学期
	課題分析	具体的な改善プラン	改善プランの評価 来年度に向けて
自然事象への関心・意欲・態度	○自然事象への関心が高く、実験や観察に対する意欲もある。	引き続き、生徒の興味・関心を引けるように、できるだけ本物を用意し、日常生活に関連させながら授業を行っていく。	今年度は屋外での活動も多く取り入れ、身近に触れながら授業ができた。来年度も引き続き実物や体験を通して授業を行っていく。
科学的な思考・表現	○科学的な思考をするのに十分な基礎知識はあるが、実験とつながらない場面がある。	実験の後の考察に時間を取り、話し合ったり、考えを発表したりする場面を多くする。また、レポートなどの課題で考えをまとめる練習を増やす。	レポートや授業のワークシートを中心に組み立てることができた。話し合い活動はコロナの関係もあり多く取り組めなかったため、増やしていく。
観察・実験の技能	○実技テストの成果もあり、実験器具の取り扱いに長けている生徒が多い。実験の結果をグラフに編集したりする力は十分でない。	引き続き実技のテストを行い、基本操作の定着を目指す。また、実験の後の情報の編集に取り組む時間を多く設ける。	実験の実技試験を行い定着に努めることができた。特に電気の単元ではクロームブックの回路シミュレーションを使うことで技能の定着がみられた。引き続き ICT など使って指導していく。
自然事象についての知識・理解	○知識が定着していない生徒がいる。	定期的に単元テストなどを行ったり、重要用語のテストを行うとともに正答率が低かった問題の解説をする。	重要用語の確認や単元テストを中心に取り組み用語の定着はよくできていた。引き続き取り組んでいく。
授業改善の検証方法	授業内での態度や課題、小テストや定期テスト、模試の点数の推移		授業内での態度や課題、小テストや定期テスト、模試の点数の推移、日々の実験のワークシートなど

小中一貫教育の視点	具体的な取り組み (交流・連携等)	2学期までの 成果と課題	1年間の成果と 今後の課題
自分の力でたくましく 生きぬく子の育成 ～9年間の継続的な一貫性のある指導を目指して～	情報交換 小中の関連単元の確認と重点項目の確認。	授業のはじめに復習することで生徒の理解度が高まった。また、実技テストも有効だった。話し合い活動を増やしていく。	小学校の授業内容も確認しながら、時間をかける単元などを見極めながら取り組むことができた。

授業改善プラン

3 年 教科 (理科)

【目的】

- 生徒の課題を分析し、適切な指導方法の工夫、改善を行う。
- 生徒、保護者に課題、改善の取り組みを明示し、学校と一体になって学力向上へ向けた取り組みを行う。

学力調査・定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子から分析して作成する。

観 点	1・2 学期		3 学期
	課題分析	具体的な改善プラン	改善プランの評価 来年度に向けて
自然事象への関心・意欲・態度	○自然事象への関心はあるが持続性がなく、集中力が続かない生徒が複数いる。	習ったことと日常生活を絡めて生徒の興味・関心を引き、授業にメリハリを付けて飽きさせないようにする。	今年度も実物を見せたり、体感したりしながら授業ができた。学んだことを日常生活に絡めた話も多くできたので来年度も引き続き実物や体験を通して授業を行っていく。
科学的な思考・表現	○科学的な思考を行うための基礎知識の定着に差はあるものの全体として表現力は高まってきている。	授業のはじめに簡単な復習を織り込み、基礎知識の定着を図る。また、考えたり予想したりする場面を多く設ける。	今年度はレポートに多く取り組ませ、発表も多く取り入れることができた。来年度もレポートや発表を多く取り入れ思考力や表現力を高めさせる。
観察・実験の技能	○実験器具の扱いについて得意な生徒と苦手な生徒とに分かれる。	実験をする時の指示を分割し、ポイントを絞って、実験器具の取り扱い指導を行う。また、実技テストや実験前に取り扱いの練習の時間を設ける。	ICTを使って動画を見せたり、クロームブックやPCのシミュレーションを使ったりすることで物理現象や天体現象の理解を深めることができた。引き続き ICT なども使って指導していく。
自然事象についての知識・理解	○少しずつ知識の定着が見られる。	定期的に単元テストなどを行い、正答率が低かった問題の解説をする。また、単元テストや重要用語の確認テストを行う。	重要用語の確認や単元テストを中心に取り組むことができた。また、入試前には頻出単語なども確認しながら取り組むことができた。
授業改善の検証方法	授業内での態度や課題、小テストや定期テスト、模試の点数の推移		授業内での態度や課題、小テストや定期テスト、模試の点数の推移、日々の実験のワークシートなど

小中一貫教育の視点	具体的な取り組み (交流・連携等)	2 学期までの 成果と課題	1 年間の成果と 今後の課題
自分の力でたくましく 生きぬく子の育成 ～9年間の継続的な一貫性のある指導を目指して～	情報交換 小中の関連単元の確認と重点項目の確認。	興味をひきつけられるように ITC を効果的に活用できた。表現が苦手なので話し合い活動やレポートを増やしていく。	小学校の授業内容も確認しながら、時間をかける単元などを見極めながら取り組むことができた。